

四日市港長期構想検討委員会（第2回みなと環境部会） 議事概要

平成20年5月14日

【事務局】 それでは、定刻になりましたので、ただいまより第2回四日市港長期構想検討委員会みなと環境部会を開催いたします。

委員の皆様方には、大変お忙しい中をご臨席いただきまして大変ありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます社団法人日本港湾協会の海野と申します。よろしく願いいたします。

それでは、本日配付させていただいております資料についてご確認をお願いしたいと思います。まず、議事次第、委員名簿、環境部会の配席図、そして資料の1といたしまして、四日市港長期構想（素案のたたき台）、資料の2といたしまして、四日市港長期構想（素案のたたき台）の「5．四日市港の将来像」というサブタイトルがついておるもの、そして資料3といたしまして、四日市港長期構想（素案）「はじめに～4．四日市港の課題」というサブタイトルがついている資料、そして参考資料といたしまして、第1回みなと環境部会・物流まちづくり部会での意見及び対応方針、そして参考資料の2といたしまして、長期構想検討の進捗状況及び今後の予定、そしてA4の2枚紙でございますけれども、水質調査地点図（定期水質調査地点及び環境基準点）という2枚物の資料、そしてA4判の1枚紙でございますが、スケジュール（変更案）といった資料がお手元に配付されているかと思っておりますけれども、過不足等ございませんでしょうか。

なお、資料1につきましては、第1回の部会資料でお持ちいただくこととなっておりますけど、その辺、お忘れ等ございませんでしょうか。

よろしければ、これで資料の確認を終わらせていただきます。

ここで、四日市港管理組合の小林部長様よりごあいさつをいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【事務局】 四日市港管理組合の経営企画部長、小林でございます。

皆様方には、3月に引き続き、お忙しい中ご出席を賜りまして、どうもほんとうにありがとうございます。

四日市港の状況でございますが、特に環境の関係でございますが、今年度から我々のほう、グリーン物流補助制度という制度を設けまして、遠い港から近い港、例えば名古屋港

をお使いになっている四日市の企業さんが、より近い四日市港をお使いになっていただいたときには、コンテナ1個につき補助金を出すとか、それから輸送、陸上の輸送を海上輸送に変えていただいたときには、またそういう補助金を出すとかという形で、インセンティブを与えるという形というよりも環境に配慮した取り組みをなさっている企業様方に貢献できるようなという趣旨でそういう制度を設けさせていただきました。

これが、ふたをあけるまでは、ほんとうにその制度を使っていただけるのかどうかという心配もあったんですが、まだどこに決めるという形ではないんですけど、大きな反響がございまして、問い合わせ等が非常に多くなってきている。そういうところから見ても、荷主の企業さんにとって環境というのは、特に二酸化炭素の軽減というのは欠かせない取り組みの1つになってきているのではないかなということを痛切に感じたところでございます。

また、我々の大きな荷主さんでもある自動車会社さん、鈴鹿に自動車会社さんがあるんですけども、その完成自動車も国内輸送がずっと陸送だったんですけども、それが海上輸送に変わりました、そのためにかなり我々のほうもモータープール、自動車置き場を確保しなくちゃいけないという形になってきております。と同時に、また我々のほうもです。皆様方からご提案いただいたいろんな内容もございまして、環境に優しい港づくりのようなものを、今までは整備課というところの1担当部署でやっていたんですけども、うちの事務所全体、四日市港管理組合の全体で横断的に取り組んでいこうじゃないかという形も発足させていただきまして、皆様のご提案、少しでも現実的に具体的にしていきたいというふうに考えております。

それから、環境を生かすという面では、景観を生かした港づくり等もございまして。そちらのほうにつきましても、これも同じようにプロジェクトチームをつくって、そしていろんな企業の皆さんとかNPOの皆さんとか住民の皆さんとこれから一生懸命やっっていこうではないかという形で取り組ませていただく予定になっております。そういうことで我々も頑張っていきたいと思っておりますので、皆様方にも、今日、また忌憚のないご意見をいただきまして、これから第2回の長期構想検討委員会を、第2回の幹事会、それから第2回の委員会というのがございまして、今日、ゾーニング等の議論もしていただけるといように伺っておりますので、何とぞどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単でございしますが、ごあいさつとさせていただきます。

【事務局】 どうもありがとうございました。

次に、委員の皆様方をご紹介申し上げます。ただいま議事次第の次のページをめくっていただきますと、委員の名簿をつけさせていただいてございます。順不同でご用意させていただいておりますけれども、恐縮でございますが、異動等により今回お変わりになっている方もございますので、委員の名簿順にご紹介させていただきたいと思っております。

みなとづくり女性ネットワーク、四日市大学教授、谷岡様でございます。

【部会長】 谷岡でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局】 三重大学の准教授でございます木村様でございます。

【委員】 木村です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 四日市青年会議所直前理事長の菊池様でございます。

【委員】 菊池です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 三重県政策部、坂野部長で、本日代理で館様がお出席でございます。

【委員】 館と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局】 川越町の総務部長、山下様でございます。

【委員】 山下です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 四日市市経営企画部参事の吉田様でございますが、本日代理で鬼頭様がお出席でございます。

【委員】 本来であれば吉田のほうが出席するんですけども、会議が急に入ってしまったので、代理で鬼頭が参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】 では、引き続き、本部会の部会長でございます谷岡部会長より一言ごあいさつをいただきたいと思います。

谷岡部会長、よろしくお願いいたします。

【部会長】 どうも皆さん、久しぶりでございます。今日、第2回目の環境部会ということでございます。先般、四川省で大変な地震が起こりました。内陸部でございます。マグニチュード7、まだいっぱい行方不明者が出ているということで、ほんとうにお隣の国として心配している一人の市民でございます。

そういう中で、よくそういう災害が起こりますと、私の住む四日市ではどうなるんだろう。三重県ではどうなるんだろう。輸送行程はどうなるんだろうとすぐ自分のふるさとと合わせて考えてしまいます。そういうときに、やはり陸の交通だけではだめなんだ。海の交通、海のアクセスが大変重要なんだと。物資に関しましても、やはり陸のほうが切断されたとき、海がいかに重要であるかということを考えたり、それから、今、小林部長さん

がおっしゃいましたように、遠くのほうまでかかってISOなんかも消費し、運送するよりは、もっとそのような災害が起こったとき、常時から近い港から商品をコンテナ船につかんで発送する、そういう状況が必要ではないだろうか、今日の午前中、ちょっと思いつきましたので、皆さんにお話しさせていただいたわけでございます。

第1回環境部会でも、いろんな先生方から貴重なご意見を忌憚なくお聞かせ願いました。第2回でございますが、前回に引き続いて、どうぞ積極的なご発言を待っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

【事務局】 どうもありがとうございました。

それでは、以降の議事進行につきましては、部会長でございます谷岡部会長のほうによろしくお願ひしたいと思います。

それでは、谷岡部会長、よろしくお願ひいたします。

【部会長】 それでは、まず、事務局より資料説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、ご説明させていただきます。座って説明させていただきます。

それでは、参考資料の2のほうをごらんいただけますでしょうか。大きなA3の資料です。みなと環境部会につきまして、私のほうから進捗状況などについてご説明申し上げます。

まず、左の白い囲みのところをごらんください。四日市港長期構想（素案のたたき台）となっていますけども、これは資料1、それと資料2で構成されています。

資料1につきましては、前回の部会でお示したものです。1の四日市港を取り巻く情勢変化と将来展望から4番のところの四日市港の課題まで、内容は変わっておりません。それから、5番のところの四日市港の将来像のところになりますけども、5-1、四日市港の将来方向から5-3の四日市港の取り組みまでは、前回の部会において議論していただいたところです。

いただいたご意見については、またちょっと資料を開けていただきまして、参考資料の1をごらんいただけますでしょうか。ここで、参考資料の1として、意見及び対応方針という形でまとめてあります。それから、対応方針のところの2ページ、1ページ、2ページが前回のみなと環境部会で出された意見ですけども、2ページの上のほう、水質の改善については、CODの指標だけではなく、窒素や燐などの評価も必要というご意見をいた

だきまして、その対応として、右側のところ、窒素や燐のデータを資料編に追加しましたということで書かせていただいていますけども、その資料がこの参考資料の後ろについてますでしょうか、水質調査地点図ということで、四日市におけます窒素の経年変化と燐の経年変化のデータをつけさせていただいています。

前回、CODが変わらないのに何か最近水がきれいになっているけども、あまり相関がないのかなということをご発言いただきましたけども、最初の窒素のデータをごらんいただきますと、上下していますけども、上下しながらも少し改善されているのかなというような傾向がうかがえると思います。ただ、平成13年のところで急激に高くなっていますけども、赤潮の影響で、その辺、平均をするとその影響で数字が高くなったんだと思います。

それから、裏のほうは燐のデータですけども、それも同じようなことが言えます。けども、全体的に若干の減少傾向かなということがうかがえるかと思います。

また、それじゃ、さっきの参考資料の2のほうに戻っていただけますでしょうか。

こういった先ほどの意見は、5-3の四日市港の取り組みなどに反映させて修正を加えております。そして、それと5-4の空間利用ゾーニングの項目を追加して、5番というところで資料2が構成されております。今回は資料2を中心に、この資料2というのは、物流・まちづくり部会との共有資料になっていますけども、その該当する部分についてご議論いただくことになっています。

それから、右側の薄い黄色の囲みのところ、参考資料2をごらんいただきますと、これは四日市港の長期構想の素案となっております。これは、左の素案のたたき台の資料1から主要な項目を整理しまして、資料3といたしました。そして、この今回の部会と、それから5月20日に開催されます物流・まちづくり部会で議論された資料2を整理しまして、それを合わせて1番から5番、それを四日市港長期構想の素案といたしたいと考えております。残りは下の黄色い囲みのように、これは資料編として整理したいと考えております。その後、その素案を、右のほうを見ていただきますと、パブリックコメントを2回行いまして、四日市港の長期構想につなげていきたいと考えております。

それから、港湾計画につきましては、右の下のほう、長期構想から素案を抜き出しまして、これもパブリックコメントをかけて、港湾計画の改訂のほうにつなげていきたいと考えております。それと、今後のスケジュールについてですけども、これもスケジュール案というのが、最後のところになりますか、資料のところ最後につけさせていただいてい

ます。下のほうのところをごらんいただきますと、今回、この部会、それと物流・まちづくり部会、5月20日ですけども、それが終わって、第2回の委員会、これが6月の下旬から7月の上旬を予定しております。

それと、お気づきの方もいらっしゃるのではないかと思いますけども、委員会も第4回の委員会というのが書かれております。当初3回の委員会を予定していましたが、もう少し時間をかけて議論して、よりよい長期構想や港湾計画をつくっていききたいというところで、委員会を3回から4回に、それから部会ももう一回増やすことにしております。このことにつきましては、第2回の委員会のほうでご提示させていただきますので、了解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

それで、ですので、終わりのほうも、下の右のほう、国の港湾政策審議会、これが当初は平成21年7月の審議会を予定して、これで最終決定されるんですけども、それが21年の11月にずれ込んでいるということになっております。

それでは、今回ご議論いただく資料2の詳細について、担当の藤田のほうからご説明申し上げます。よろしくお願ひいたします。

【事務局】

資料2のほうを説明させていただきますので、座って説明させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

では、お手元に資料2のほうはご準備いただいているかと思ひます。まず、1ページめくっていただきまして、四日市港の将来像というところで、5-1、四日市港の将来方向。

まず1つは、大きな港湾管理者の考え方として、地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくりというのが大きな考え方としてございます。それを整理していく上で課題の抽出や要請とかを整理いたしまして、委員会のほうで四日市港の将来を考える方向として、産業・物流への貢献、都市・住民への貢献、環境への貢献という3つの方向から検討を進めていくということで意思統一をさせていただいたところでございます。

長期構想につきましては平成40年代前半、港湾計画につきましては平成30年代前半を目標年次としたものを策定していきたいというふうに考えているところでございます。

1ページめくっていただきまして、2ページでございます。

こちらは、先ほどの3つの方向を図式的に示したものと、あと、ソフト面の対応ということで多様な主体との連携と今後の要請に合致した港湾計画の策定ということで掲げさせていただいております。

次、3ページでございます。

5 2、四日市港の将来像と取り組みといたしまして、委員会のほうで3つの方向性というのを打ち出していただきました。そこへ至るまでの四日市港の課題でありますとか、将来展望とそれに対する四日市港の今後の要請ということを出しまして、左のほう、将来像1、背後圏産業の発展を支える四日市港の実現、将来像2、都市・住民とともにある四日市港の実現、将来像3、環境にやさしい四日市港の実現という方向を目指していくために、先ほどの将来展望や要請などから幾つかの取り組みというのを考えさせていただいております。その取り組みについては、以降のページで詳細にご説明させていただきます。

ちょっと資料は飛んでしまいますけど、14ページのほうをごらんいただきたいと思えます。

先ほど事務局のほうからご案内させていただきましたとおり、この資料については物流・まちづくり部会と共通の資料になっておりまして、この部会の中では、将来像2の後半と将来像3についてご議論いただきたいと思っております。

まず、前回の部会からの資料の修正内容でございますけれども、前回、第1回の部会ではテーマとしてご説明させていただいていた部分がございます、今回は実現した四日市港の姿、案ですけれども、お示しさせていただいております。それを実現するための取り組み案という形にそのテーマを修正させていただいております。次のページ以降になりますけれども、第1回のみならず環境部会、物流・まちづくり部会で出た主な意見を各取り組みごとの、ページの下のほうに記載させていただいております。

いただいたご意見に対応する部分につきましては、取り組み案の本文中に該当する番号でお示しさせていただいております。また、ご意見を受けて新たに追加、修正した部分についてはアンダーラインを引いてございます。資料をごらんいただく際の参考としていただきたいというふうに思っております。

14ページですが、まず、将来像2の都市・住民とともにある四日市港の実現についてでございます。

将来、実現したい四日市港の姿といたしまして、津波や地震などの自然災害から住民の暮らしを守る頼もしい四日市港という姿、人々の暮らしに身近な存在としてみなと文化が醸成し、人々が憩い、楽しめる四日市港という姿、人々の活動の舞台として都市とともに活性化し、住民が元気になる四日市港という姿、この3つを掲げています。このうち、この部会では、2つ目と3つ目の姿を実現するためについてご議論いただきたいというふう

に思っております。

17ページのほうをごらんください。

取り組み(案)2、みなとの文化が醸成し、人々が憩い、楽しめる港づくりの1つ目でございます。人に親しまれるアメニティ豊かな港づくりの推進としまして、前回の部会では、下にお示ししておりますとおり、物流・まちづくり部会と合わせて6つのご意見をいただきました。みなと環境部会では、市街地からのアクセスの向上について、緑地間のネットワーク化について、公園の質を高めるためについて、人と車の動線を分けた港づくりについてといったご意見をいただいております。物流・まちづくり部会でも、緑地等のネットワーク化の必要性や四日市地区へのアクセスの向上についてご意見をいただいております。

こうした意見を受けまして、まず、既存緑地の高質化、新たな緑地の整備といったことにより、アメニティ機能の向上を図るための取り組みが必要ではないか。次に、朝明地区から霞ヶ浦地区に至る間に点在する緑地や干潟などのネットワーク化による魅力を向上させるための取り組み、そして、市街地から緑地や水辺などを含めた港への安全で快適なアクセスのための取り組み、以上の3つの取り組みが必要ではないかというふうに考えております。

続きまして、18ページをごらんください。

取り組み(案)の2、みなとの文化が醸成し、人々が憩い、楽しめる港づくりの2つ目でございます。先ほどは、ハード的に考えられる取り組みを記載しておりましたけれども、ここではソフト的な取り組みを記載しております。地域への情報発信、情報共有の促進についてでございますが、両部会で4つのご意見をいただいております。港湾活動等港の本来の姿を見てもらうこと、原油の施設や景観などの観光資源の情報発信に関すること、四日市地区の特性を生かした港づくりに関すること、港が人々の暮らしにいかに貢献しているかアピールが必要といったご意見をいただいております。

こうした意見を受けまして、考えられる取り組みといたしまして、港まつりなどのイベントや四日市港ニュースなど情報発信のためのツールを活用した親しまれる港づくりの推進や、それによる地域との連携強化のための取り組みが必要ではないか、四日市地区における倉庫群のレトロな雰囲気や文化財など港特有の景観を生かした活性化の取り組みが必要ではないか、港の歴史や役割など港に対する理解を深めてもらうための取り組みが必要ではないか、霞ヶ浦地区における夜景や港湾活動などの景観を生かした活性化の取り組み

が必要ではないか、以上4つのソフト的な取り組みが必要ではないのかというふうに考えているところでございます。

続きまして、19ページをごらんください。

取り組み(案)2、まちづくりと一体となった港づくりでございます。このページは、今回新たに作成したページでございます。といたしますのも、下のいただいた意見の欄を見ていただきますとおり、多様な主体との連携によるまちづくりに関して、前回の両部会で合わせて7つもの意見をいただいております。このため、1つの取り組みとして新たに必要ではないかとの考えから作成したものです。

いただきましたご意見としては、市民を先導する仕掛けづくりや、それを主体的に引っ張ってくれるリーダー的な人材の発掘の必要性について、四日市地区の港まちづくりにおける四日市市との連携の強化について、空き倉庫などの遊休施設の有効活用による港まちづくりについてといった意見をみなと環境部会でいただいております。

物流・まちづくり部会では、計画の具体化について、行政間の連携について、市民活動の中心的人材の発掘について、官民の役割分担についてなど、みなと環境部会と同様の意見もいただいております。

こうした意見を受けまして、考えられる取り組みとして、四日市市が検討を始めた活性化策との連携など市との連携強化の取り組み、NPOなど多様な主体との協働による港まちづくり、遊休施設の有効活用による市民活動への協力といった取り組みが必要ではないかと考えているところでございます。

続きまして、20ページをごらんください。

将来像3、環境にやさしい四日市港の実現でございます。ここでは、将来実現したい四日市港の姿としまして、港の貴重な自然を保全するなどにより、自然とふれあえる四日市港という姿、清潔で調和のとれた景観が保全された美しく、魅力ある四日市港という姿、地球温暖化対策や循環型社会の形成に取り組む地球にやさしい四日市港という姿、この3つを実現したいと掲げています。

では、21ページのほうをごらんください。

取り組み(案)3、自然とふれあえる港づくりの1つ目でございます。まず、自然海浜・干潟の保全についてですが、前回の部会でいただきましたご意見としましては、既定計画の見直しも含めた残された自然海浜や干潟の保全について、自然再生や水質改善などにおける専門家との連携についてといったご意見をいただいております。

これを受けまして、考えられる取り組みとしましては、楠、磯津地区や朝明地区に残る干潟等を保全するための取り組み、人々が憩え、多様な生物が生息できる海域部と陸域部が連携した自然環境の創造のための取り組み、こういった取り組みを実現するための専門家との連携、また、こういった施策の効果の確認のための取り組みといったことが必要ではないかというふうに考えております。

続きまして、22ページをごらんください。

取り組み(案)3、自然とふれあえる港づくりの2つ目でございます。伊勢湾再生に貢献する海域環境の改善についてでございます。これにつきましては2つのご意見をいただいております、1つが水質の評価方法について、もう一つが多様な主体との連携についてでございます。

こうした意見を受けまして、自然と触れ合える四日市港を実現するための取り組みとしまして3つほど掲げておりまして、ヘドロのしゅんせつ、アマモや昆布といった藻場の再生などによる水質や底質の改善のための取り組み、四日市港の水質などの現状や改善のための取り組みなどを情報発信し、多様な主体の清掃活動等への参加機会を提供するための取り組み、緑地や公園などでのボランティアなどとの連携による美化運動への取り組みといった取り組みが必要ではないかというふうに考えております。

続きまして、23ページをごらんください。

取り組み(案)3、美しく、魅力ある港づくりでございます。良好な港湾空間の保全・創出といたしまして、第1回部会では、景観に配慮した計画の推進の必要性についていろいろなご意見をいただいております。

このため、美しく、魅力ある四日市港を実現するための取り組みといたしまして、現存する歴史的、文化的施設や貴重な景観を保全するための取り組みが必要ではないか、周囲と調和した港湾景観づくりのための取り組みが必要ではないか、また、内容的には22ページの取り組みの再掲になっておりますけれども、清掃活動におけるボランティアなどとの連携強化の取り組みが必要ではないかといったことで3つほど挙げさせていただいております。

続きまして、24ページをごらんください。

取り組み(案)の3、地球にやさしい港づくりの1つ目でございます。まず、地球環境問題(CO₂等削減)への対応といたしまして、前回の部会では、四日市港のCO₂削減への取り組みの具体化について、企業のコスト意識からの脱却や長期構想へのグリー

ン物流の位置づけについて、グリーン物流の推進についてといったご意見をいただいております。

こうした意見を受けまして、地球に優しい四日市港を実現するためには、改正省エネ法の施行など物流事業者へのCO₂削減の取り組みの義務化ということもありまして、こうしたCO₂削減を絶好のチャンスととらえ、グリーン物流を推進するための取り組みが必要ではないか、CO₂削減のためには四日市港を積極的に利用することが有利であるということアピールするための取り組みが必要ではないか、荷役作業などの港湾活動から排出されるCO₂を削減するための取り組みというのが必要ではないか、四日市港周辺の大気環境や騒音、振動を改善するために周辺道路の渋滞解消のための取り組みというのが必要ではないかというふうに考えているところでございます。

最後になりますが、25ページをごらんください。

取り組み(案)3、地球にやさしい港づくりの2つ目でございます。循環型社会への貢献といたしまして、前回部会では、静脈物流への取り組みの推進についてというご意見をいただいております。これを受けまして、地球に優しい四日市港を実現するための取り組みとしまして、現在でも決して多くはありませんけれども、金属くずなどの循環資源の取り扱いがでございます。そういった循環資源の取扱機能の能力の向上による静脈物流の推進のための取り組み、また、現在埋め立てが進んでいる石原地区の竣工後の跡地の活用について、リサイクル産業の立地可能性を検討する取り組みというのが必要ではないかというふうに考えております。

以上で、資料2、「5. 四日市港の将来像」のうち、5.3、四日市港の取り組みについての説明を終わらせていただきまして、引き続いて、5.4、空間利用ゾーニングについてご説明させていただきます。資料の25ページ、26ページのほうをごらんください。

現在、空間利用のゾーニングについては、機能別に4つお示ししております。上段に現状、下段に将来像という2段書きでお示しさせていただきました。

まず、一番左、26ページの左側、赤い部分ですけれども、物流機能についてです。現在は、霞ヶ浦地区と四日市地区とで物流機能が分散しておりまして、四日市地区でも活発に荷役作業が行われています。しかし、将来的にはこれを霞ヶ浦地区に集約していく方向でゾーニングを検討しております。

次に、産業機能についてでございますが、現在埋め立てが進んでいる石原地区の埋立竣工後の土地利用について、先ほども説明させていただきましたけれども、そういったリサ

イクル産業も含めた新たな産業用空間、そしてゾーニングの中で位置づけていきたいというふうに考えています。

次に、26ページの交流機能についてでございますが、現在は、川越、朝明地区から霞ヶ浦地区まで緑地、干潟が点在している状況でございますが、これら緑地等のネットワーク化を促進することにより、また、四日市地区では、港特有の景観を生かした港まちづくりを推進していくことにより交流ゾーンの機能充実を図っていきたいというふうに考えております。

最後に、環境機能についてでございますが、朝明地区や埋立計画のある楠、磯津地区に残されている自然海浜や干潟など既定の港湾計画を見直すことなどによって自然を保全するゾーンとして、また、石原地区の三田最終処分場がございますけれども、そういった部分では、跡地利用について陸域部と海域部が連携した緑地などを創造し、ゾーニングの中で位置づけていきたいというふうに考えています。

今回は4つの機能別にお示しさせていただいておりますけれども、最終的にはすべての機能を盛り込んだゾーンについて1つの図面上であらわしていくこととしております。

以上で資料2のほうのご説明を終わらせていただきます。

【部会長】 ありがとうございました。

たくさんの資料をつくっていただきましたので、委員の皆様方には、ご意見をいただくの、大変だろうなと思うんですけども、第1回部会でのご意見とその対応及びゾーニングの考え方について、今から委員の皆様方からご意見をいただきたいと思っております。

まず、今日ご出席の委員の皆様方、ちょっと後にしていただいて、まず、委員のほうから、ちょっとこの前、高松海岸のこともおっしゃいましたし、もう少し補足して、第1回の委員会と重なっても構いませんので、ご発言をお願いしたいと思います。

【委員】 第1回に言わせてもらいましたんですけども、当町、北勢唯一の海浜ということで、今年も5月の連休には、県内外、町外、岐阜、愛知から非常に多数潮干狩りに訪れてくれました。それで、今年は潮干狩りしている方の、何がとれたか、いつもグラウンドで練習していますので、見ていますと、ハマグリが非常にとれまして、大きなハマグリが。ハマグリといたら、ここ十年来ほとんどとれてなかったんですね。今年から非常にバケツいっぱいになり大きなものが上がってきておりました。それと、アサリとか、昔とれた貝が結構繁殖したのか、よそから移動してきたのか、それはちょっと定かではございませんけれども、そういったのを見ていますと、やはり年々高松海岸の水質とか、そういっ

たのは改善されているんじゃないかというのが本音でございまして、それと、そこで問題点になるのが、訪れた方が非常にごみとか、それとか、前回言わせてもらいましたけれども、要らない貝はその辺の駐車場にほうっておくとか、そういったごみの問題とか、それからトイレがないので、うちの体育館で、汚いといったら失礼ですが、砂のついたのが上がってきたりとか、そういったマナーが非常に悪いということで、そういったそこへ訪れる人のマナーの向上とか、そういったことも取り組んでいただけたらなと思っております。

整備のことは後々また提案させていただきますけども、感じたことは以上でございます。

【部会長】 ありがとうございます。

うれしいニュースですね。そのようなハマグリがとれるようになったと今日初めて私は知ったわけですが、もとの海岸というか、港に戻ってきたと。すばらしいことでございます。

【委員】 貝とかそういったものは全然まいてもないんですよ。自然とわいてきたものですから、何がよくなったかと、前回言わせてもらったのは、水質は変わってませんよということと言われたんですけども、今年についてはほんとうかなり大きなハマグリなんですよ。だから、よそから移動してきたと思うんですけども、だから、移動してくるといことは、その水質とか砂とか、そういったのが非常にいいのではないかと私は自分で考えているんですけどね。

【部会長】 都会では、やはりこの連休中、非常に海に潮干狩りに行ったというニュースを聞くんですけども、やはり前日にまいたり、それなりの努力をして人工的に繁殖させているという部分でしょうけど、委員から伺った限りにおいては、自然的に発生し繁殖しておるといふふうに理解して、どこかの、おたくのほうの漁港がまいているということはないですよ。

【委員】 ないです。隣の桑名漁港はまいているんです。だから、それが要するに移動してきたのかなとは思うんですけども。

【部会長】 それにしても海がきれいになっているという一部のほんとうの証拠ですね。ありがとうございました。

モラルの問題、これはほんとうに今、人間として青少年も含めて考えなければならないし、特に子供たちのほうが逆に環境に関するモラルというのは、学校教育を初め浸透しているように思うんですね。そこに付き添っている親方のほうが注意をしなければならない、啓発しなければならないのが、今の環境の地域社会に生きていく人間としてのモラルの問

題かなと思って。これは、高松海岸だけに来る人じゃなくて日本全体の環境に関する程度
の考え方の違いというか、温度差かなというふうに思ったりします。

【委員】 多岐にわたりますので、まず、この将来像というか、もともとのところに戻
りますけども、この地域に貢献する、なくてはならない存在と云々とありますけども、や
はりここが一番大事かなというのと、今、一市民としてやらなければならないこと、必要
なことが全部書かれていて、非常によくできた資料だなと思うんですけども、イメージが
わいてこないというのが1点、私は感じました。名古屋港であるとか、神戸であるとか、
じゃ、四日市はどんな港のイメージ。このイメージというのは、利用する市民にとっては
非常に大事なかなと思います。

あと、前回は申し上げましたけども、四日市港と霞地区、ここが市民と産業との分かれ
道かなと私は感じましたので、霞地区もやはり手前のこのポートビル周辺までしかおそら
く市民の方は利用できないだろうと。その辺のすみ分けを、産業は産業で非常に重要なこ
とですし、四日市港と霞ヶ浦の緑地、あの辺との産業と市民との分かれるという言い方を
するとあれかもわからないですけど、現実、分かれてゾーニング等、計画等をしていかな
ければいけないのかなという思いがあります。

今のところ以上です。

【部会長】 ありがとうございます。

これでいくと、ページ数、何ページになるんですか。

【委員】 もともとの、先ほど言ったのは1ですね。

【部会長】 14ページの住民とともにある四日市港の実現という形で、まだちょっと
イメージがわいてこないんじゃないかというご指摘をいただいたようでございます。あり
がとうございました。

それでは、環境に関して、この前、ご意見をいろいろいただいたんですが、もう少し深
くご意見をいただけますでしょうか。

【委員】 どこでも構わないということですか。

【部会長】 そうですね。

【委員】 先ほどの朝明地区での高松干潟でハマグリがたくさんとれるようになったと
いうお話なんですけれども、ここ数年、町屋海岸でもそうなんですけれども、それから、
あと、松阪のほうとか、かなりハマグリがたくさんとれているという、昔に比べて多くな
っているという現象がありまして、それで、それはやっぱりハマグリ、水がきれいじゃな

いと生きていけないものですから、だから、そういう現象、傾向にあるのかなというふうには思います。

今回新しく作っていただいた窒素とか燐とかのデータを見ても、窒素はあまり変わっているように見えないですけども、燐とか見ると、ちょっと減少傾向があるのかなというふうには見えるんですが、この図表の表現の仕方なんですけれども、少しサイエンティフィックな話になりますが、これは1年間の平均値をあらわしていると思うんですけども、こういう化学的な成分とかそういうのというのはものすごく変動しやすいものですから、だから、平均化してしまって、それで、これが正しい値というふうにも見えてしまうんですけども、これが、だから、いつデータをとられたかということによってもかなり変わりますし、それから、この点が1年間に1点しかないんですけども、それがどのくらい変動しているのかというのがこのデータ上ではちょっとわからないというのがあります。それで、非常に範囲が広いと、実際平均をとっている範囲が広いと、そうすると、点は打ってあるんですけども、でも、あまり当てにならない値というふうに、どういうふうにも変わり得る値というふうになってしまいますので、だから、その表現方法を考えたほうがいいのかなというふうにも、今回つくっていただいたデータについては感じました。

とりあえずそんな感じでよろしいでしょうか。

【部会長】 ありがとうございます。

どうも専門的なご意見で、これのデータ見ていると、ああ、よくなっているなど。

【委員】 よくなっているかもしれないんですけども。

【部会長】 ボーダーラインからみんな下になってきつつあると思うんだけれども、ちょっととり方が。

【委員】 多分、だから、すごい変動があると思うんですね、年間で。

【部会長】 年間の、1年間でトータルした平均だからこうなるけども、月別にやってみると、もっと違う細かいデータも出てくるんじゃないかというご指摘ですね。

【委員】 だから、その値がかなり毎月やっても同じような値なのか、それとも月によってがーっとものすごく変わるのかということによっても、この値の評価というのが変わってくると思いますので。

【部会長】 同じ横に並んでいても、ここには意味があるんだぞということですね。

【委員】 そうですね。

【部会長】 ということで、またほかに四日市の環境部のほうからも資料提出ができる

かもわからないし、もうちょっと詳細な資料がもしか手に入るようであれば、やはり環境部会としては、今後勉強していく必要もあるかなというご意見をいただいたと思っております。

それでは、委員、よろしゅうございますか。

【委員】 前回の発言といたしまして、グリーン物流、これの促進補助制度によってCO₂の削減に寄与することになっているということとか、まちづくりは四日市市とも連携するべきであるとか、港にはわかりやすい案内表示が必要であると、こういうことを申し上げさせていただいております。その観点でちょっと見せていただいて、よく反映されているんじゃないのかなというふうに思っております、特に申し上げたいという点はございませんけれども。

【部会長】 また後でお聞きになりましたらお願いしたいと思います。

【委員】 まず、資料の21ページのほうなんですけれども、自然海岸・干潟の保全、やはり港ですので、一番市民の方々、触れ合える場所というのが、港をイメージされるときに、やはり浜辺であるとか、海浜、砂浜があるというものがやっぱり大事だと思いますので、こういうものはぜひ保全していただきたいと思います。

次に、22ページの自然とふれあえる港づくりなんですけれども、こちらのほうも、それぞれ皆さん、水質浄化に関してさまざまなことをやられていると思うんですけれども、このようなことを実際、市民の皆様にも広く知っていただくという広報活動、PRというのは必要であると考えますし、また、それをきっかけにボランティアの方、NPOの方など活動される場が広がることもありますので、このようなことはぜひ市としてもやっていかなきゃいけないなということは感じております。

次に、25ページのところなんですけれども、地球にやさしい港づくりということで、リサイクル、循環資源の取扱機能の向上を図り、静脈物流への取り組みを推進するという記述があるんですけれども、今、石原地区における将来的なリサイクル産業の立地可能性の検討を進めると。リサイクル産業という言葉が書かれてはいるんですけれども、こちらのほうにつきましては、循環型社会に貢献する産業、さまざまなものがございまして、地球環境問題に対応できる産業ということで、リサイクル産業に特化するわけではなく、環境関連産業等の立地可能性の検討という程度にもうちょっと広く可能性を広げていただきたいかなというふうに感じます。

以上です。

【部会長】 ありがとうございます。皆さん、意見をたくさん言っていただいております。ありがとうございます。

ゾーニングのほうでまだご意見が出ていませんので、ページ数、26ページでございますが、この件に関しまして、少し1分ぐらい、もう一度目を通していただきまして、表と裏があるんですけども、またご意見をいただきたいと思っておりますので、ご準備のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、恐れ入ります。ゾーニングの考え方についてご意見をいただきたいと思ひます。

【委員】 川越地区は外れですので、全体を通して今感じたことは、やはりこのグリーン、27ページ、朝明地区のこの辺をもう少し緑地のほうを強く打ち出してほしいなと思ひますけども、これでいくとちょっと寂しいなと思ひまして。将来のあれで見ますと、北の外れの、これは今、川越公園のあるところの緑地を少しは増やすということと、それから、高松海岸のところもちょっと入れてもらえるという感じですけど、もう少しこの辺に緑を増やしていただけたらなと思ひますけども。

あと、環境機能ですけども、ゾーニングにはちょっと関係ないかもしれないんですけども、CO₂の測定したデータというのはこれにはないですね。というのは、私、40年前ですかね、第1回の大学駅伝がこの横を通ったんです。今でも通っていますが、そのときにうちの選手が走ったときに、ここを、塩浜地区を通ったときに、何やあそこを走ったらのどが痛くなったとか、そういった選手から苦情を聞きまして、それから40年、40回ぐらい大会がたっているんですけども、そういった苦情がだんだんとなくなってきているんですね、公害に対しての。

だから、四日市のイメージというのは、非常に全国的には四日市ぜんそくということでイメージが悪いですから、そういった現在の環境はこういうふうですよというのをもう少し僕は入れてもらったらどうかと思ひますけども、そういったものをどこかに取り入れてもらって、それから、先ほどの8ページ、グリーン物流と、要するにCO₂の削減に港湾は一生懸命努力しているんだよということと一緒に、抱き合わせにもう少し将来像の中に盛り込んでもらえないかなと思っております。

以上でございます。

【部会長】 ありがたい意見をありがとうございます。

【委員】 物流のゾーニングの考え方は、私は、分散しているのを霞ヶ浦のほうに移行

していくというのは非常に理にかなっているかなと思いますし、また使いやすいかなと思います。

霞ヶ浦の競輪場からドームからあの辺の施設と、じゃ、四日市港を市民に利用しやすい港にするというときのこの2つほど、どうやってつなげるかなとか、その辺は一考していかなければいけないかなと思っています。

それと、交流機能の現状ということで、緑地のネットワーク化を図るということはあるんですが、これをすることによって何がメリットが出てくるのかなというのは、緑地化をする中に23号線等、例えば海外へ行きますと、海の周りに、道路の幅にシーレーンというか、自転車が走れたり歩けるところをずっと整備してというのがあるんですけども、そういった考え方なのか、ただ単に緑地をつくってつなげていこうという考え方なのか、これはまた考えていただきたいなと思います。

以上です。

【部会長】 ありがとうございます。

皆さん、専門的なところから意見を言っていたので、非常に有効的というふうに理解して聞かせてもらっております。

【委員】 ゾーニングのプランを見せていただいて、ゾーニングという考え方自体も非常にいいと思いますし、それから、これまでの意見とかを取り入れてくださって非常にいいプランではないのかなというふうに思いました。

交流機能の件に関してなんですけれども、先ほどのご意見にもありましたけれども、緑地ネットワーク化を図るということで、それで、ネットワークというものが具体的にどういうものなのかということですね。先ほどのご意見と全く同じなんですけれども、それが具体的には書かれていないので、ちょっとイメージしにくいかなというふうに感じました。

緑地化されるときに、さらに公園を整備したりとかという場合に、それ自体は非常に結構なことで、皆さんにも使えるし、いいのではないのかなと思うんですけども、特に高松海岸とか、そういう自然が残っている場所の場合は、ともすれば公園というところをつくりやすいということで、砂浜のほうにがーっと人が憩えるような場所をつくってしまって、本来自然が残っている場所というのを、そのほうがいろいろ作り方が楽だからというのはあると思うんですけども、つぶれてしまって、もともとの目的から、例えば潮干狩りできる場所が少なくなってしまうとか、そういうことになりがちなので、そういうところをちょっと配慮して進めていただけるといいなと思います。

整備自体は、先ほども言われたように、マナーの問題であるとか、公園、トイレの問題であるとかというのは非常に問題だと思いますので、整備されるのは賛成なんですけれども、つくられるときはちょっとそういうことを注意されたほうがいいんじゃないのかなというふうに感じます。

それから、次の環境機能の現況ということで、特に今、埋立計画のある楠地区と、それから磯津地区というのを削除とか、そういう縮小とかの検討をしていただけるとするのは、非常によいことだと私の立場からだと思います。皆さんの市民の立場からいっても、そういうところで自然と触れ合えるというのは子供たちのためにもなるし、大人のためにももちろんいいんじゃないのかなというふうに感じています。ぜひこれは実現していただきたいなというふうに思っています。

それから、もう一つ、石原地区の緑の創造という計画が1つ書かれていますけれども、これに関しては、具体的にどういうことなのかというのは、これを見た限りではちょっとよくわからないんですけれども、ちょっと私、これを見せていただいて、少し考えた、思いついたことがあったので、それをご紹介させていただきたいと思うんですけれども、こういう埋め立てを今されている場所というのは、埋立直後というのは、海の鳥の非常にいい繁殖場所になるというのが知られています。

特に三重県の鳥であるシロチドリとか、それとかアジサシの仲間、そういうものというのは、今、非常に減っていると言われていて、それで、三重県のレッドデータブックにも絶滅危惧種としてシロチドリとか載っているんですけれども、何でそれが非常に減っているかという、そうすると、それが卵を生む場所が非常に減っている、もともと河原とかそういうところに卵を生む鳥なんですけれども、そういうところが非常に減っているという現状があります。そういう場所を、埋立地というのは、そういうふうな卵を生んだりする場所には非常に最適なんです。

私の意見なんですけれども、そういう場所を卵を生む繁殖場所として鳥たちに使っただけというふうにすると、そうすると、保全の面でも非常にいいんじゃないのかなというふうに感じます。

ちょっとそれを思ったものですから、こんな感じでまた回して見ていただくといいと思うんですけど、鳥はこんな感じにいるんですけど、こういう鳥たちの卵というのは、こんな感じで、鳥は大体巣をつくるんですけど、ころころとその辺に卵を生むみたいな感じで生んでしまうんですね。これが鳥の性質なんですけれども、生まれるひなもこういう感じ

で何も無いところにひょいと生まれるという鳥なんですね。シロチドリももちろんそうなんですけれども、というわけで、こういう場所というのが、人がもちろん入ると踏みつぶされてしまいますし、それから、この今の写真とか見ていただくとわかるんですけれども、荒地じゃないとだめなんですね。あんまり木がばーっと生えてきて森になってしまうとだめだというのがありまして、それで、埋立地、初めはこういうしょぼしょぼした草が生えていて非常にいいんですけど、だんだんほうっておくと木が生えてきて、それで何も住めなくなってしまうということがあるんですね。

もともと、だから、こういうのは河原にいて、それで河原は水が時々ばーっと流れると、そうすると、そういうのが一回クリアになって、またこういう環境が維持されるというのがあるんですけど、埋立地の場合はそういうのがないものですから、ほうっておくとまただんだん森になってしまうというのがあってできない。だから、そういうのはやっぱり人が定期的に手を入れて、それで、そういう草刈りをするなり何なりして、メンテナンスし続けなければいけないというのがあるんですね。

そういうことをする価値があるのかというご意見もあると思うんですけども、石原地区を見ると、そうすると、ゾーニングで言われていた緑地からも大分離れていますし、そういう意味でも、ここは、だから、鳥のためにサンクチュアリーとしてつくられるのもいいんじゃないのかなと思います。こういう場所をつくっていただくと、そうすると、ふだんはモニタリングとか調査のためだけに人が入れるようにしておいて、それで、繁殖時期は市民の皆さんに観察してもらって、場合によっては子供たちに見てもらって、こういう鳥というのは調査のために足輪をつけたりとかもするんですけれども、その足輪をつけるための、子供たちに手にのっけたりとか、こんな感じでやってもらうというのも非常に情動的にはいいんじゃないのかなというふうに感じます。

それから、もう一つ、こういうのをつくって効果があるとすれば、中部国際空港のほうで、鳥の問題になっているのが、ウミネコが非常にたくさん休みやすいものですから集まってしまって、それで飛行機にぶつかってしまうという問題が非常にあるんですね。それは、休む場所がそこにいい場所があるからというのがあって、こういうところにそういう広い場所があると、そうすると、空港にいるのがこっち側に移って、鳥にとってもいいし、飛行場にとっても。今は追っ払うためにわざわざ空砲を撃って、それで飛ばしているんですけれども、なかなかそういうのも続けるのは難しいですし、そういう効果も期待できるんじゃないのかなと。実際にそれはやってみないとわからないんですけども、試してみ

る価値はあるんじゃないのかなというふうに感じます。

長くなりましたけど、以上です。

【部会長】 貴重なご意見をありがとうございました。

【委員】 この4枚の色を1つの図に重ね合わせますと、物流、産業、それを補完する緑と自然と、こういうのがもっと説得力あるように見えるのかなという点で、ちょっと興味深く見させていただいておりましたのと、それから、交流機能の、さっきもネットワークのお話がありましたけど、もう一つのほうの港の景観を生かしたというタイトルといえますか、こういうふうにつけられておりますが、もう一つ、文化というの、そういう要素も入れられてはどうかというふうに、この地域のことを考えるとそういう思いを持ちました。

以上です。

【部会長】 ありがとうございました。

文化ゾーンというのは別に1つ、柱立てとしてつくったらどうかというご意見としてとらせていただいたらよろしいですか。

【委員】 ではなくて、景観とあわせたような格好でどうなのかなと。

【部会長】 わかりました。

【委員】 まずなんですけど、物流機能の現況のところのゾーニングの考え方については、確かに今まで四日市地区、以前であれば四日市地区で扱っていたものが、今後霞ヶ浦地区の岸壁などが整備されることによって物流機能はシフトされていくというのは、そうだと思います。その中で、しかしながら、物流機能の部分的に四日市地区に残すところと、1枚めくっていただいた27ページのところで、交流機能の現況、みなとの景観を活かしたまちづくりの推進というものでも四日市地区が入っていると思います。こちらのほうなんですけれども、やはり物流で利用している際には、やはりトラックというか、コンテナを積んだ車両が通るわけですので、そこに港を生かした景観づくりで人が触れ合えるまち、交流機能としてそのまちづくりを生かしていく際に、やはり人と車など、ある程度危険があると思いますので、そういうものを考えてやる必要もあるのかなという気が1点しております。

また、こちらのほうにつきましては、市としても、四日市地区のことに関しては、19ページにも書いていただいておりますが、港を生かしたまちづくりということで連携して進めていかせていただければいいなと考えております。

以上です。

【部会長】 どうもありがとうございました。

相当たくさんの意見をいただいたようで、簡略に整理させていただくとすれば、まず最初のほうに、複数の委員の皆様方から、やはり高松干潟は三重県においては非常に特出すべき自然環境が創出できる場所であるということのご意見をいただいたようでございます。

それから、2番目でございますが、地域に貢献する港づくりという項目がございますが、その部分につきまして、もう少しイメージが明白にされるべきであるというご意見をいただきました。

それから、四日市港と霞地区の市民利用でございますが、やはりその部分については、もっと市民が利用できるんだという部分とすみ分けを明白にすべきである。産業と市民とのゾーニングの分け方について明白にすべきであるというご意見をいただきました。

それから、今日ご提出いただきました環境に関する数値でございますけれども、やはり年別じゃなくて月別的なデータがありますともう少し細かい状況もわかるのではないかとということで、またご提出いただければうれしいというご意見をいただきました。

それから、非常にこれは四日市港の特色と思うわけでございますけれども、グリーン物流、24ページについては、やはりますますこれは目玉として、地球にやさしい港づくり、環境部会の目玉として促進してほしいというご意見をいただきました。

それから、あとは、石原地区のリサイクル産業という、そういう特化ではなくて、もう少し広い意味の地球環境としてとらえていただきたいというご意見も出ました。

それから、水質評価、また重なるようでございますけれども、いろいろ市民を巻き込んだ広報活動はされているというのは現実でございますけれども、もっと四日市市民がそれがよくわかるような広報の仕方も必要でないかというご意見をいただきました。

それから、今度はゾーニングに関してでございますけれども、それに関しましては、やはり朝明地区、ぜひとも、ちょっと朝明地区は左上になるんですけども、もう少し緑の地域をふやしていただけないかという要望も含めたご意見をいただきました。

それから、やはり緑地のネットワーク化というのはよく問題になるわけですが、その中にシーレーンと申しますか、遊歩道はどうするのか、自転車歩道はどうするのかという、23号線が非常に危険でございますから、その中の緑地のネットワーク化の中にそのような緑地も含めた遊歩道、シーレーンの建設ということをご指摘いただきました。

それから、委員のほうからは、石原地区に関しましては非常に熱い思いを持っていらっ

しゃいまして、私もそう思います。シロチドリを初め三重県での希少種がいるわけで、やはり繁殖しやすい状況をきちっとつくっていただいて、そして整備するという整備のやり方においては、やはり鳥たちにとって快適な空間であるということを意識の上でメンテナンスも含めてお願いしたいという意見が出ました。

それから、やはりこのゾーニングに関しまして、文化という言葉もやはり景観と含めてどこか文言として入れていただくと、今、三重県も文化力という感じで政策が進んでいるわけでごさいまして、入れていただきたいというご意見をいただきました。

それから、やはりもう少し市民が参画できるというような、そういう新しい公的な発想のご意見をいただいたというふうに理解しております。

委員の皆様方から事務局のほうできちっと把握し、書類に残してもらってございしますので、私の発言以外も、私が積み残して発言できなかった、まとめられなかった部分はあるかと思えますけれども、よろしくお願いしたいと思います。

今ご意見いただきましたことにつきまして、事務局のほうで補足説明がございましたらお願いしたいと思います。

【事務局】 緑地のネットワーク化ということで、お二人の方から意見をいただきました。横文字を使っていたので少しわかりにくかったのではないかと考えています。緑地のネットワークというのは、そもそも環境港湾計画のほうで点在する緑地をもう少しつなげられないかと、必ずしも物理的に道をつけて、遊歩道をつけてつなぐだけではなくて、例えば各一つ一つの緑地の内容が別の緑地でわかるようにということも含めてネットワーク化というふうに呼んでいます。

23号線の話もございましたけども、23号線は、やっぱり1つの交通ネットワークの重要な部分を担う一方、やっぱり人々が港へ行くというのを遮断するということもありますけども、ですので、緑地をネットワークすることについても、23号線のこととか、あるいは途中で漁港なんかで海で寸断されていたり、遊歩道という形ではなかなか難しいところもあるんですけども、後で言ったそういうソフト的なつながりというか、そういったことも考えて、一体化して皆様に使えるようにしていきたいと思っております。

補足で申しわけないですけど。

【部会長】 ありがとうございます。

【事務局】 窒素、燐のデータのグラフでの表示方法なんですけども、例えば1年に1つの点で示させていただいていますけれども、ここに最小値と最大値という幅で示させて

いただくような方法も1つあるのかなという表現方法で1つ考えています。

【委員】 これ、何回ぐらいやっているんですかね。

【事務局】 隔月、2カ月に1回という形で。

【委員】 その中で、大水が出たりとか出なかったりとかですごい変わってくると思うんですね、2カ月に1回だと。だから、すごい下がったりすごい上がったりというのは、多分、そういうの影響がすごいあるんじゃないのかなと思いますね。

【事務局】 やっぱり海での採水ですので、船を使って行きますので行ける日が限られているというのと、どうしても雨が降った日の翌日とかには、海であっても水質が濁っていたりして悪くなる傾向がありますけれども、船を利用するという、どうしても決めた日に採水しなければならないということもありまして、必ずしも条件のよい日に採水しているわけではありませんので、例えばステーション20ですと、平成13年に突出した値が出ていますけれども、おそらくこれは赤潮の影響ではないかというふうに考えていますけれども、そういった偶然的というか、高い値が出てしまうような、結果的にはそういうことにもなってしまいうこともあります。

【委員】 なかなか水質評価というのは難しいですね。だから、それを反映しているのが生き物だったり、アサリとかハマグリとかだから、だから、そういうので見ていってもいいのかなというふうにも思いますけど。

【事務局】 生物指標なんかも、例えばアサリの漁獲であるとか、そういったのも1つの評価の方法であるかなというのはちょっと思った次第です。

【部会長】 ありがとうございました。

それでは、次は、長期構想計画(案)、別の試案でございますが、それについて、そちらのほうへ移っていきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

資料はナンバー3でいい? これは事務局からの補足説明はなしで行く?

【事務局】 少しだけ.....。

【部会長】 お願いします。

【事務局】 内容の説明というよりも、最初にご説明いたしましたように、資料1のところ、その1番と4番から、今回、資料3という形で主要項目を整理したと、抜き出したというところですので、内容的には当初お示しましたものと同じです。前回の部会でも、私、環境のほう、資料1のほうから抜き出して少しご説明申し上げましたけども、それが環境も含めて集中されたというところです。

ですので、こういったのをもう少し入れたほうがいいんじゃないかとか、いやいや、これは必要ないんじゃないかということがありましたら、ご意見をいただければ幸いに存じます。

【部会長】 ありがとうございます。

事務局からそのような補足説明をいただいたわけで、委員の皆様方におかれましては、事前に読んでいただいているというふうに理解しておるわけでございますが、委員が今のところでおっしゃいました、例として、伊勢駅伝、マラソンですか、高松のところを通ると非常に後で空気が悪いことがよくわかったと。それが非常に最近においてはそういうことがなくなってきたという非常な前向きな意見をいただいたわけですが、そういう意見というのは、委員、よろしゅうございます、ここの長期計画構想(案)のところ。

【委員】 8ページですか、高松でなくて塩浜地区なんですけども、そこを走った子がそうやって当時、臭いとか、走った後、のどが痛いと言っていたのを聞いたんですけども、今は、ここ近年、走った選手にはそういったことはあまり耳にしなくなったなというのが実感で、僕が言いたいのは、全国的に四日市というのは公害で非常に悪いイメージが浸透していると。それで、四日市の工業地帯も非常に空洞化していると。要するに、企業もそういうイメージがあるから張りつけないと。ほとんどある企業が千葉とかあの辺に全部移っていったと。それで、今、四日市のコンビナートは非常に空洞化していますので、そういったものも活性化しないことには、この四日市の港というのは、長期的に幾らこういうのを掲げても、やはり企業が張りつかないと港を幾ら整備しても収入が得られないのではないかと僕がちょっと懸念しておりますので、やはりまず、いや、今の四日市は環境面もこういうふうに充実してきたんだと。それで、この四日市港は今後さらに充実した港にしていくにはどうしたらいいかということで、今言ったように、クリーンをまず全面に出していただいて、それから、景観をもう少し、神戸とか横浜みたいなあんなきれいまでいきませんが、少しでも足元に及ぶような景観にさせていただいて、そこへ自然、うちの高松海岸と楠の干潟がありますので、そういったものも自然と競合した四日市港だということをPRするような構想にさせていただけたらいいなというのが私の考えなんです。

【部会長】 ありがとうございます。

ちょっと話が飛ぶようでございますけど、私が親しくさせていただいております四日市と合併した酒屋さんがあるんですね。世界的なグランプリをとられる酒屋さんなんですけど、

その酒屋さんが合併により楠から四日市市になったんですね。そしたら、全国シェア、世界シェアを持っているんだけど、合併した当時、これ、公害の四日市の酒を飲んでおることになるのかということで非常に困ったというふうにぼやいていらっしまったことがございまして、やはり水とか環境に重視してグリーンを全面に出している四日市であり、そして、そこに拠点を置く中枢港湾としての四日市港だというのがもっと全面に出るといいんじゃないかというふうに私も考えるわけでございます。

【委員】 その方は私の大先輩でありまして、大変おいしいお酒でありますけれども、この中身で、18ページの課題3というところに、満足意識が低いと。低いのは、今現在では当然であるかなと思います。ハード面で何をつくるとか、産業の分野で何を整備するというのはもちろん必要ですけども、何でもかんでもつくってどうしてという考え方じゃなくて、市民が利用しやすい、今まではこうだったからそれはできないよという考え方なくして、利用しやすい、そういった仕組み、枠組みをつくるのが継続して、市民が活性化した活動ができる港づくりになるのではないかなと思います。

産業の面では、新名神等の整備において、霞地区なんかはほんとうに名古屋へ行くまでよりは四日市で停留したほうが非常に便利であるし、先ほどの補助金等のお話も聞く中では、すごい発展していくのではないかなと思います。

あと、考え方というか、イメージなんですけども、例えば四日市の歴史ある、19ページのあの辺を週末、四日市は萬古が一応有名なので、海外では台湾とか、そういう夜市とか、開放して市民にある程度の枠組みの中でそれを名物にすることが県外から顧客も呼べる港づくりも必要ではないかなと思います。

その辺は、ハード面の整備というよりもソフト面の枠組みの整備をすれば、コストもそれほどかからないと思います。そのために、ある程度の産業の移管というハード面の整備は必要かと思われまます。

以上です。

【部会長】 ありがとうございました。

【委員】 この課題のところで、課題4の環境を守り、環境を生かす港づくりの推進というところで、前のほうで、高松干潟とか、それとか吉崎海岸があるというのは言われているんですけども、もともとはそれだけじゃなくて、ここ自体がほとんどが、四日市港自体が干潟があって、そのところを埋め立ててずっとつくってこられたという背景があると思うんです。これまでは、だから、自然を人間のために利用して行って、それで、人

のほうはそれでいろいろな利益を享受してきたという背景があると思います。

ここの課題のところではそういうことを書いて入れておいて、それで、こちらの将来像のほうでは、それを保全するということが書かれているので、ここでこういう問題があって、課題のところではそういう問題があって、今後は自然と人間との共生を図るためにこちらの将来像のほうで何をするかというのを書いていくというのが、コントラストをつけるというのが、これから皆さんにパブコメとかを求めると思うんですけども、わかりやすい、そういう方法かなというふうに思います。

ちょっと将来像のほうにも戻るんですけども、その中で、環境について調査するというだけじゃなくて、それを市民に還元するために市民に啓蒙して、それで参加していただくということを必ず入れていくといいのかなというふうに感じます。

以上です。

【部会長】 ありがとうございます。

【委員】 18ページ、先ほどもおっしゃっていただいたので、繰り返すようなことで申しわけないんですけども、都市と住民とともにある港づくりの推進という中で、アンケートで重要意識が79%で高いが、満足意識が21%と低いという、満足意識を高めるには具体的にどんな取り組み、施策というのをこれから持っていくのかなというふうに、そこにかかっているんだろうというふうにちょっと感じたのと、それと、これはどうでもええと言ったら怒られるかもわかりませんが、少子高齢化の進展というのが2カ所程度出てきているんですが、ここで全編通じてあまり必要ではないかもという気がしております。

以上です。

【委員】 環境なんですけれども、皆さんが言われてきた中で、今さら私のような者が言うことは特にはないんですけども、水質環境についてはすぐ効果があるというものというのとはなかなかないと思うんですけども、もともと海が持っていた自然浄化能力というものをもとあった姿に戻してあげるというものが一番の効果があるものだとは思いますが、短期ではなく長期的に水質改善が行えるようなものをしていただきたいと思います。

【部会長】 ありがとうございます。

私もずっと熟読させていただく中で、18ページ、都市・住民と共にある港づくりの推進、このアンケート、非常に満足意識が少ないな、低いなということでちょっと気になる部分なんですけども、ほかの2人の委員様からもそのような意見が出たわけですが、この点についてもやはり少し考えていただきたいなという、やはり情報公開の時代ですから、載せることは載せることに意味があるのかとも思いますが、その点はどうなんですかね。

こういう点については、これは載せたほうがいいとお思いですか？ それか、もう少し違うデータがないんですかね。ほんとうに身近に感じてないというのが厳しいけども、四日市市民の意見だと思えます、はっきり言って。23号線から断続されておっつね。

【委員】 それと、過去にもご意見があったようですが、やはり大型トレーラーの量が多いとなかなか近づきにくいというイメージもちょっとあろうかなという気はします。

【部会長】 怖いというイメージなんですよ。近づくといいか、怖いから避けるというイメージのほうがちょっと強くて、それはどういう……。

【委員】 何とかやわらげる工夫が要るのかもしれませんがね。

【部会長】 ありがとうございます。

それでは、整理させていただきますと、やはりもっと市民が利用しやすい港づくりにしてほしいということがまた再度、何回も出されております。

それから、やはり、もっともっと、私、これは非常にいい意見だなと思ったのは、コンビナートが全盛時代が長く続いたわけで、その負の遺産として公害があったわけなんですけども、公害を乗り越えた四日市として非常に全国的にプラス思考になったわけですが、やはり今まさにコンビナートの企業が元気にならないことには四日市が元気にならないよ、そうしないことには四日市港の発展はないよという委員の意見は非常に私も共感できる部分で、やはりこれからはそういう商業面での連携がますます充実されて、その中のグリーンを全面と出し、景観を全面と出し、自然と人間との共生した干潟も残しという部分での港づくりが叫ばれるということは、ほんとうにこれが実現したらすばらしい四日市港ができるかなと思って、長期構想計画が非常に楽しみなわけでございます。

それから、県外からもっともっと人が呼べるような港づくりになってほしいなど。意外と県外からここへ来ませんよね、現実的には。それは情報がPR不足というものもあるし、魅力に欠けるといふ部分もまだまだあるように思います。

これもちょっと話が横へそれるんですけども、四日市出身の瀬木直貴監督が「いずれの

森か青き海」という映画を、第一弾をこの四日市のコンビナート、そして、この近辺を中心としてロケ班を出し、ボランティア活動と知り市民が参加して、瀬木監督は非常にそれからいろいろ末期がん患者を取り上げて映画を作製したり、今回、環境サミットが北海道で行われます。その前に「気づく」というタイトルでもって、やはり環境を重視して、アルピニストの野口さんかな、非常に仲よくされていて、そういう人が四日市の監督として、今、まさにもう半分世界に旅立とうとしている、そんなすばらしい監督もいるわけです。

そういう三重県出身、特に四日市出身の環境に非常な思いと情熱を持っている人たちを中心としたイベントなんかも組んでもらうとうれしいなと、商工会議所なんかもね。これは個人的な意見で応援している部分もありますので、ちょっと申し上げたんですけども、やはり負の遺産があるがゆえに四日市は日本にPRできる素材があるわけで、そういう点を委員がおっしゃったんじゃないかなと。やはりこのマイナス面を言うことによって問題点が明白になり、課題が明白になり、住民参加のまちづくり、港づくり、親しめる港づくりに発展するんじゃないかというご意見を各委員の先生からいただいたように理解しております。

それでは、ちょっと補足説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

先ほど委員から産業面でのご意見をいただきましたが、資料の説明で、時間の関係で割愛していますので、資料ナンバー2の9ページ、それから資料ナンバー3の8ページをごらんいただきたいと思うんですが、先ほどのご指摘のコンビナートの元気がないということは、例えばエチレンのように、三菱化学がエチレンをとめたのが2000年ですが、そういう汎用樹脂については確かにプラントをスクラップしたということがありますが、今申し上げた資料に書いてございますが、平成15年の4月に産業再生特区の認定を受け、19年の7月にはイノベーションセンターの認定も受けまして、四日市の法人市民税と固定資産税のトータルのピークが昭和63年ぐらいだと思うんですが、平成19年でほぼ同じぐらいの額にカムバックしています。

資料ナンバー2の9ページにありますように、先端産業集積との連携による、例えばシャープとか東芝と連携した高度部材のほうに転換をしていますので、その辺についてはかなり現状は変化をしているということだけご認識いただきたいと思いますので、補足をさせていただきます。

【部会長】 ありがとうございました。

ちょっと、知識不足のところがありました。物流によるまちづくりのほうではそういうご議論をなさっていると思うんですけども。

委員、お願いします。

【委員】 今言われたことは十分承知しております。ただ、世間の受け取るイメージがそういうふうだということを言っているんです。決して産業が劣っているとか、そういうことは言っておりません。四日市には、はっきり言って東芝さんも来ておりますし、そういった企業が結構張りついております。しかし、世間が受け取るイメージがそういうふうですから、その辺をもう少し払拭した内容にさせていただけたらなということを行っているんです。

【部会長】 ありがとうございます。

HONDAというお船があるんですね。HONDAという文言が張った。ああいうのは非常にいい宣伝になるので、シャープという船はつくれないんですかね。余談の話なんですけどね。皆さんご存じと思うんですけど、今度、日本航空がオリンピックに向けて金銀をとった人には、飛行機の船体、横っ腹にお写真が皆ついて、飛行機が飛ぶと言っているじゃないですか。ああいうのがコマースシャル的に四日市港に、景観との関係があるので非常に難しいと思うんですけども、もう少し企業名が明白に出されて、活力あるんだぞというのが、やっぱり市民サイドまでまだまだ私は落ちてないのが、部分があると思いますので、その点、どうぞまたご理解いただきたいと思います。

ありがとうございます。

そういうことでございまして、ほかに補足説明は？

【事務局】 今、公害のイメージのお話が出ていましたので、先ほどの18ページ、その数字のところでお話ございましたけれども、やはり公害のイメージというところも、住民の満足度について、海へ来たときに、そういうことも影響しているのではないかと思います。

港の管理組合のほうも、毎年、住民の方々に1,000人アンケートというのをやっています。項目の中で四日市港の水環境等についてどのように考えるかという質問があるんですけども、決して高いものではありません。その理由をというところがあるんですけども、やはり公害のイメージがあるからというところで満足しないとか、そういうふう

に評価する方が少なくありません。

ですので、そういうことで県民の方々が来ないということにもなりますので、それは親

しまれる港を目指す組合としても、やはりそういった方々に、まともに公害があるとかないとかいうのでなくて、いろいろ水環境等のデータを正しく、あるいはまたもう少し詳しく伝えていくというのが、今も取り組んでおりますけど、これからますます充実をさせていきたいと考えております。

【部会長】 ありがとうございます。

【事務局】 先ほど委員のほうから大気環境の話が出まして、ランナーの話が出たんですけれども、やっぱり環境というのを1つの将来像として持ち上げていきますので、どうしても港ということで、水質環境とか、そういう形の面にとらわれてデータをつくっているところが、集めているところがございます。

実際、四日市が公害を克服していったというのも事実ですので、環境というものを売りにしていく中で、今までこういう形で克服してきたよというイメージもデータとしてそろえる中で、環境に優しい四日市を実現していくんだということを売りといいますか、両方示していくのも必要かと思っておりますので、大気の関係のデータのほうも追加させていただいて、整理していきたいというふうに思います。

【部会長】 どうもありがとうございます。

ほかの委員さん、まだ言い足りないことはございません？ 相当この環境部会は意見が言いやすいのか、厳しい意見が飛び交っているようでございますけども、その点、お許し願いたいと思います。長期構想計画はぜひ実りあるいいものにつくりたいという委員のみんなの思いでございますので。

本日のいただきましたご意見に基づきまして、事務局のほうでまた検討を進めていただき、第2回幹事会を経て第2回委員会につなげていくこととしたいと思います。

それでは、事務局にマイクをお返しいたします。

【事務局】 どうも大変長い時間にわたりまして、ご議論ありがとうございました。いただきましたご意見につきましては、これから事務局のほうにおいて作業をいたしまして、今後予定されております第2回の委員会のほうに開催のご案内をさせていただきたいというふうに思っております。第2回委員会につきましては、6月下旬から7月中には開催を予定していくつもりでおりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。

また、第3回の部会につきましては、先ほどのスケジュールにもありましたけれども、10月ごろを予定してございますので、それもよろしく願いしております。日程はまた

改めて調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、第2回四日市港長期構想検討委員会みなと環境部会、これにて閉会としたいと思いますので、本日は大変お忙しいところありがとうございました。

文責：四日市港管理組合 整備課